

# 第3章 計画の進行管理

## 1. 進行管理体制

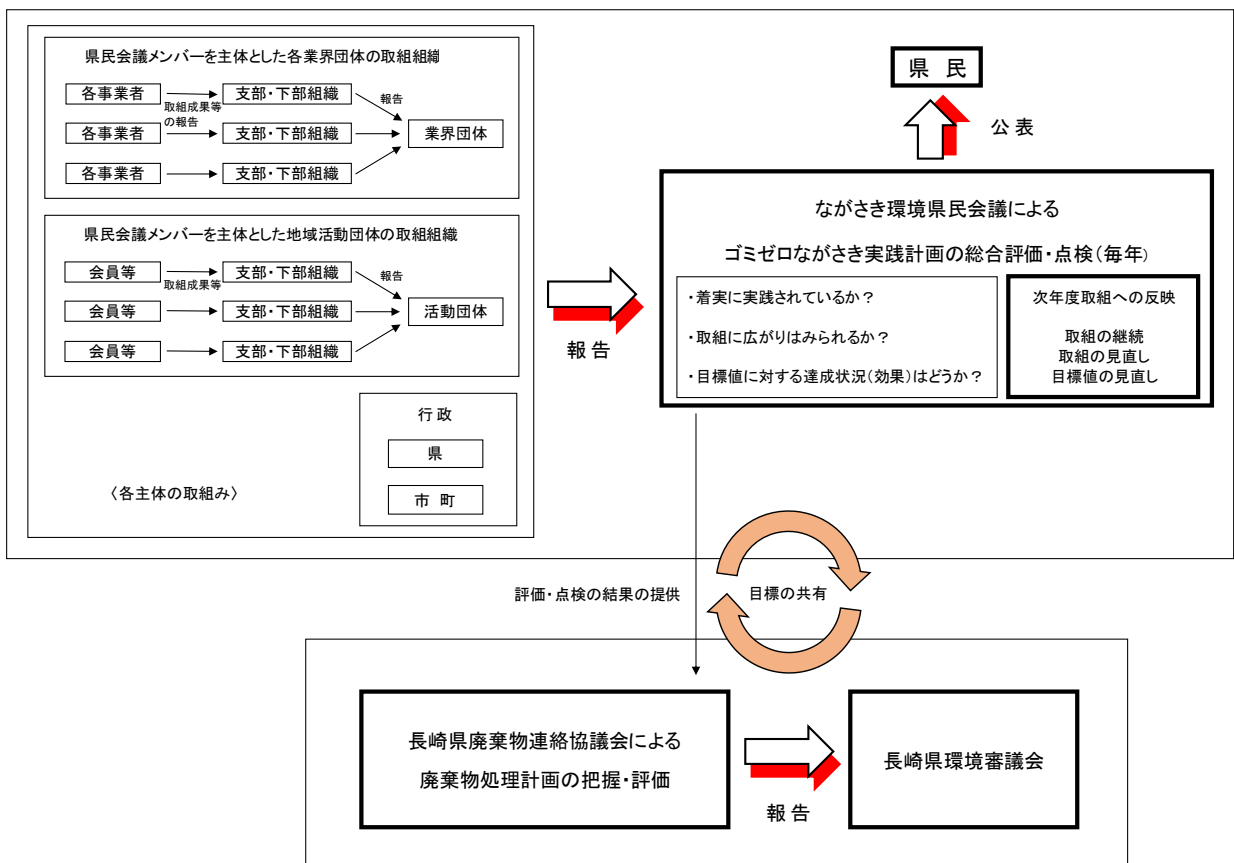
ゴミゼロながさき実践計画の進行管理は、「ながさき環境県民会議」が主体となって実施していきます。

しかしながら、ゴミゼロながさき実践計画を効果の高い計画としていくためには、事業者や県民一人ひとりの協力が不可欠です。

事業者については、各種業界団体における廃棄物減量・リサイクルに取り組む組織をたち上げ、ながさき環境県民会議と情報交換等の連携を図ることが効果的です。

また、県民の取組に関しては、自治会や婦人会活動等、それぞれの活動団体が、自らの取組の進捗管理を行う体制を確立し、ながさき環境県民会議と連携を図ることが重要です。

そこで、ゴミゼロながさき実践計画では次のような進行管理体制をつくります。



## 2. PDCAサイクルによる進捗管理

ゴミゼロながさき実践計画の進捗状況は、PDCAサイクルによる管理を行い、その成果については年度ごとに評価をおこない、必要に応じて取組内容の見直しを実施します。

毎年の実施状況の評価については、市町による廃棄物処理状況のデータ、各種業界団体や各事業所による自主行動計画の達成状況のデータ等を指標として活用し、各主体の取組状況を評価していきます。

このうち、県の取組の評価については、事業の政策評価と連動して随時進めていきます。

なお、「長崎県廃棄物処理計画」の進行管理と一体性を持たせるために、最低5年に一度、計画全体の見直しを実施します。

